

事務事業名	森林づくり推進支援金事業			会計	一般会計	実施区分	継続		
				事業種別	政策	開始	20 終了 29		
H29作成課等名	林務課	H29係等名	里山保全係	H28担当課等名 林務課					
基本計画上の位置づけ	政策	5	人の営みと自然・環境が調和したまちづくり						
	施策	51	緑の保全と創出						
目的	対象(誰・何を)	市内の民有林			対象指標	指標名及び単位		28年度数値	
	意図(どういう状態にするか)	1. 里山を整備して良好な環境整備や景観形成を図る。 2. 間伐材の利活用を進める。				森林(民有林)面積 (ha)	40393		
	向上させたい上位施策の成果指標	身近な自然は守られていると感じる市民の割合 %							
目標	種別	指標名及び単位			27年度計画	27年度実績	28年度計画	28年度実績	備考(指標変更など)
	成果指標	1. 整備済面積 (ha)			12.5	2.43	5	2.15	
	定性目標								
事業概要	<p>【長野県森林づくり県民税活用事業】 市町村支援 (森林づくり推進支援金事業) 地域固有の課題に対応した森林整備の推進や、間伐材の利用促進などを行うための市町村の取り組みに対しての県の支援金。県では、飯田市独自の取組み方法や事業内容・事業費などの申請を受け、県主催の県民会議や地域会議に於いて、承認・決定される。</p>								
28年度事業内容	事業内容				名称		活動指標		
	<p>長野県森林づくり県民税活用事業 1 里山整備事業は、里山を整備し居住環境の改善と、景観対策を図る。緩衝帯整備事業は、農林産物の被害を防止することを目的に、野生鳥獣の住処や通り道となる荒廃した森林の林床整理や不用木等を除間伐することで、シカ・イノシシ・サル等の生息しにくい環境を生み出す。 2 竹林整備支援事業: 自治会・集落等が行う竹林整備に破碎機を貸し出す。 3 地元産材を活用し普及啓発を図る。 4 「いいだ森林学校」を開設し、林業技術の向上のための支援をする。</p>				<p>1. 里山整備・緩衝帯整備事業 2. 竹林整備支援事業 3. 地元産材普及啓発事業 ・ウッドスタート事業 ・木製遊具製作業務 4. 林業技術支援業務</p>		<p>1 A= 2.15ha 2 6箇所 3 スプーン900本 木製遊具12セット 4 5種類の講座(9日間: 参加者延べ133名)</p>		
事業コスト		27年度決算額	28年度予算額	28年度決算額	29年度繰越額	特定財源内訳、補足			
事業費計(千円)①		5,299	5,000	4,986	0	(県) 森林づくり推進支援金(10/10以内)			
国庫支出金									
県支出金		5,295	5,000	4,965					
起債									
その他									
一般財源		4		21					
人件費計(千円)②		1,430	1,430	1,430	0				
正規職員所要時間		400	400	400					
臨時職員所要時間									
総事業費①+②		6,729	6,430	6,416	0				
事業内容・目標達成状況の振り返り	<p>地元要望を受け、野生鳥獣対策等や歩行者等安全確保のため、緩衝帯整備・里山整備を実施した。目標地には含まれていないが、H28年度は、飯田の木を活用して木のスプーンを製作。新生児へのお祝い品として配布を始めた。また、同様に木製遊具を作り、公民館等へ配布し普及啓発を図った。さらに新規にいいだ森林学校を開校。5種類の講座(森林散策、チェーンソー、林業現場見学、木工・リース作り、刈払機講座)を開催し、延べ133名の参加者数であった。</p>								
改革改善の考え方	①問題点	当事業の多くを国・県補助事業対象外の森林整備に充てているが、森林所有者だけでなく多くの市民がこの県民税の効果を実感できる機会がまだ少ない							
	②改革提案	公共施設(公園・学校)等における木材の普及啓発や木質バイオマスの利活用などの「木を活かした力強い産業づくり」及び、NPOや地域住民との協働や森林環境教育への支援など「森林を支える豊かな地域づくり」の具体的事業の検討							